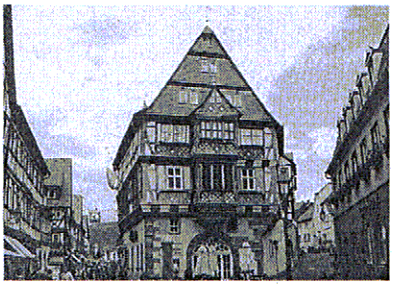
エコ住宅をつくる 外断熱改修

第3回 街並み保存と外断熱改修

ドイツでは外断熱改修で古い建物を再生

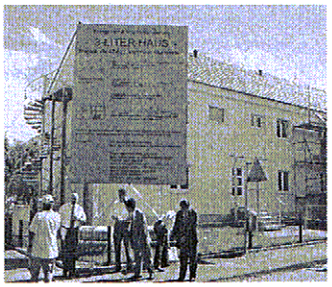

◀ミルテンブルグホテルリーセン

フランクフルト間、マイン川畔の観光地からバスで1時間、ミルテンブルグに1158年（平安時代末期）に建てられたホテルが現存する。ホテルの名前はリーセン（Riesen）、850年前の建物だ。1階は石組みで、2～5階は木組みで造られている。外断熱の建物ではないが、設計事務所を経営していた建築家の現オーナーが時間と費用をかけて再生したものだ。天井の高い1階はレストランと店舗になっており、今もホテルとして使われている。古い建物を壊すのではなく、再生し、街並みを保存し、長く使うというドイツ人の考えが如実に表れている。

NPO法人外断熱推進協議会事務局長 堀内 正純氏

プロフィール

特定非営利活動法人外断熱推進会議事務局長。1948年北海道生まれ。長年住宅生協運動に従事。1998年北欧を訪問。2002年NPO外断熱推進協議会を設立。2003年特定非営利活動法人に。外断熱におけるセミナー、講演、技術支援、海外視察のプロデュースを行う。


◀マインツの3リッターハウス外断熱改修現場

ハンブルグの港湾に近い、窓を換え、レンガの外観を再現した外装により再生する作業が、2002年から行なわれている。改修前の室内は住人の手によりペンキが塗られ、壁のレンガには大きなひびがあったが、補強し内装や設備を換えることで、外観や内装だけでなく快適さもよみがえるのだ。その結果、築80年の建物は家賃を上げてこれから数十年使われるという。

海外からの移民の町に変わっている。

5階建ての建物を14㎝の厚さの断熱材で覆い、外観を再現した外装により再生する作業が、2002年から行なわれている。改修前の室内は住人の手によりペンキが塗られ、壁のレンガには大きなひびがあったが、補強し内装や設備を換えることで、外観や内装だけでなく快適さもよみがえるのだ。その結果、築80年の建物は家賃を上げてこれから数十年使われるという。

2006年1月6日よりEU加盟国全体で一斉に建物のエネルギーパス（証明書）発効する。日本と同じようにエネルギーを海外からの輸入に頼っているEU諸国は、エネルギーの将来を危惧し、EU全体におけるエネルギー消費の削減を目的に実施する。新築及び既存住宅だけでなく非住宅も対象で、車の燃費と同じように住宅の燃費を「Kwh／㎡・k」で表示する。新築は勿論、既存住宅においても断熱改修が行なわれた際にAからIランクの表示が行なわれ、売買や賃貸の金額に反映する。対象になるエネルギーは冷暖房・給湯・照明エネルギーの合計である。

フランクフルトからドイツ鉄道で35分、ライン・プファルツ州の州都マインツに1931年に建てられた集合住宅を外断熱改修した3リッター住宅がある。やはりここでも壊すのではなく、性能や住環境を良くして、これから50年使用する。3リッター住宅とは、1年間に1㎡あたり34Kwh以下の燃費で暮らせる住宅だ。

◀フェッデラー橋通りの賃貸マンション 完成後

現在のドイツでは、2002年2月の「省エネルギー政令」（EnEV）発効以降、新築住宅は全て低エネルギー住宅とする事が義務付けられている。更に無暖房住宅（パッシブハウス）の新築や改修がすすんでいる。